



優秀賞

## 兵庫県遊技業協同組合

「はあ〜とふるふぁんど  
フェスタ」事業



保育園児による和太鼓の演奏

誰もが“生きがい”を持って人生を送りたいと願う。それはハンディキャップの有無にかかわらず、一人の人間として同じである。そして、障害を持つ人と、そうでない人が共生できる社会であってほしい。それは私たちの社会の健全度や成熟度を示すバロメーターになるだろう。加えて、共生社会を実感できる機会があれば、なおいい。

兵庫県遊技業協同組合青年部会（以下、兵遊協青年部会）では、毎年、社会福祉ぱちんこ競技大会を開催したり、授産施設や小規模作業所で製作した菓子や工芸品を購入し、ホールの景品として利用するなど、身体障害者や社会的に弱い立場に置かれた人々を対象とする社会貢献活動を実施している。そのような活動を通じて障害者の人々と交流する機会を持つなかで、青年部会では、障害を持つ人々の豊かな未来の創造と生きがいづくりの必要性を痛感してきたという。

そこで兵遊協青年部会では、部会創立30周年を迎えた2005年（平成17年）に、障害者（児）と健常者（児）との「明るい共生社会」を創生するための一助になればとの思いから、両者を多数招待して、「はあ〜とふるふぁんどフェスタ」を立ち上げた。



兵庫県遊技業協同組合  
青年部会部会長  
権 和人さん



兵庫県遊技業協同組合  
青年部会前部会長  
平山龍一さん

# 共生社会に向けて

会場内で行われた創作風船ショー



同フェスタは、両者が参加できる数多くのプログラムを組み込んだもので、昨年、神戸ハーバーランドセンタービル地下1階スペースシアターで開催されたイベントは、ふれあいステージにおける障害者(児)のハンドベル演奏、クラウンパフォーマンス、保育園児のマーチングバンド、戦隊ヒーローショーなど、盛りだくさんの内容となった。

さらに会場内に、兵庫県内にある障害者施設や各種小規模作業所で作られた菓子類や工芸品の展示即売所、遊技機メーカーや一般企業などの協賛会社によるゲームコーナー、模擬店などのお祭り縁日コーナーなどを設け、障害者(児)も健常者(児)もともに楽しめるような工夫をした。

イベントの最後には、招待した障害者(児)、健常者(児)、一般客を対象に、液晶テレビ、ビデオレコーダーなどの豪華賞品が当たる抽選会を実施。会場からは大きな歓声が上がった。また、会場内には身体障害者や高齢者を対象とした介護施設を運営する兵庫県社会福祉事業団に贈呈する車いす対応型の福祉車両も展示された。

同フェスタは平成17年に開催し、翌年は実施しなかったが、兵庫県や神戸市などの自治体、教育委員会、社会福祉協議会などの団体から、「他の団体では実施不可能な画期的事業であるため、障害者施設などから再開の要望が強く出ている。ぜひ、継続して開催してほしい」との要請を受け、昨年、再開したという経緯がある。

再開にあたっては、前回以上の内容の充実を目指し、



抽選会で大喜びの子どもたち

また後援団体である神戸新聞事業社の協力を得て、開催内容を掲載した折り込みチラシを10万枚作成するなど、一般への周知徹底にも努めた。その効果もあってか、フェスタ当日に詰めかけた観客は、招待した障害者(児)とその家族も含め、第1回目よりも約2,000人増え、のべ約12,000人に及んだ。その反響は大きく、当日にラジオ関西の番組で実況中継されたほか、後日、『神戸新聞』の情報コーナーに大きく掲載されたり、サンテレビジョンの経済番組でトピックスとして約5分間にわたって放映された。

同フェスタの実施では、兵遊協青年部会の部会員46名全員が計画から準備、運営まで一致団結してあたり、部会員相互の団結力が一層高まったという。ともに汗をかいて、ひとつの目標に向かうことの大切さがうかがえる。また、協賛団体や協力企業からボランティアとして参加した180名と交流を深めることもできたということで、その関係は今後、さまざまな機会で役立つに違いない。各種団体から継続開催を望む声も強いことから、兵遊協青年部会では今後も同フェスタを実施していくという。

準備から当日の運営まで手がけた青年部会員

